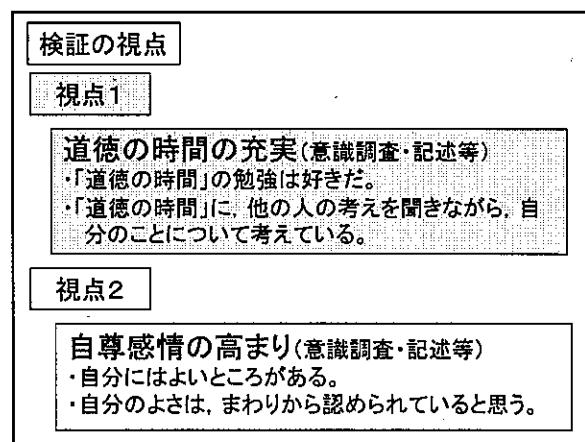
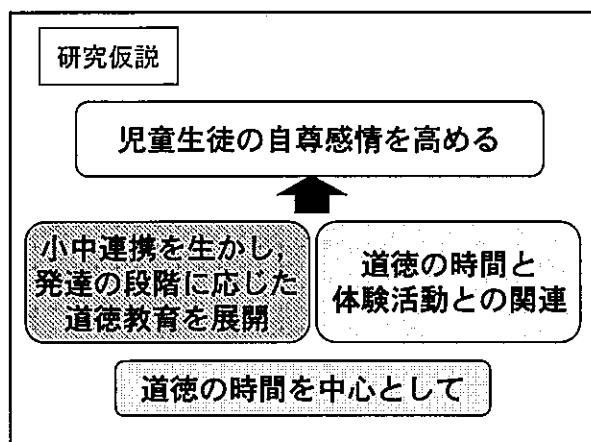
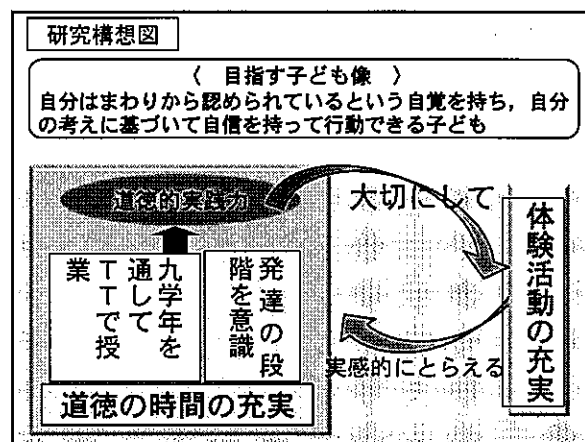
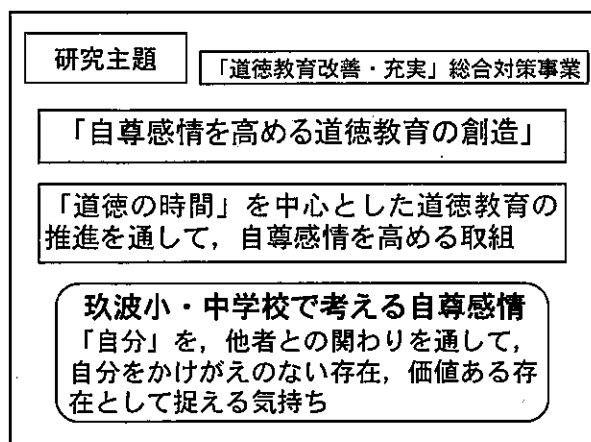
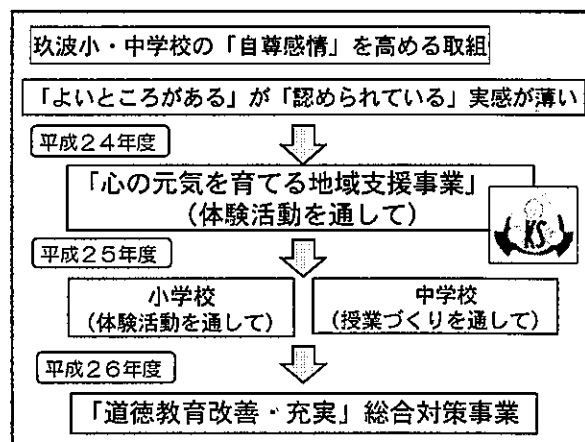
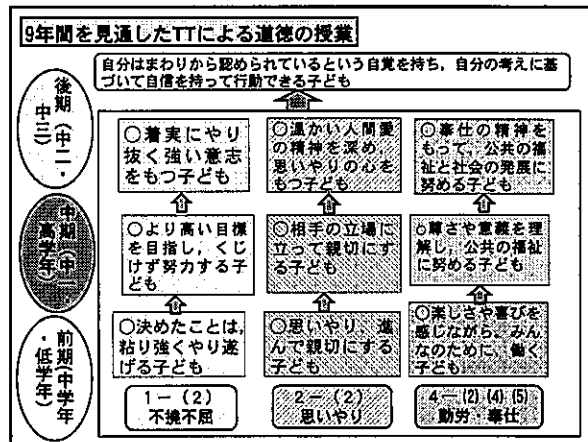
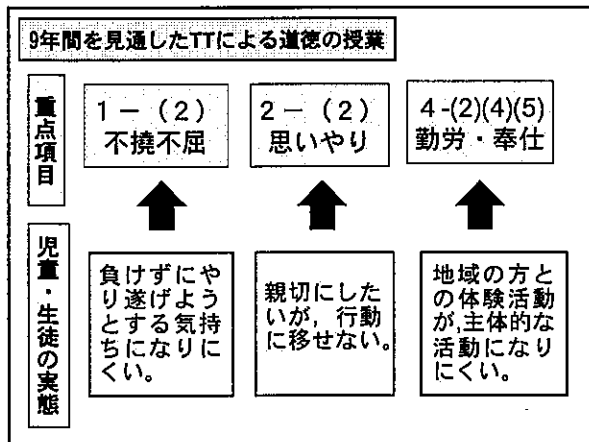






9年間を見通したTTによる道徳の授業

共通認識

合同研修会

「伝えたい」ではなく、「考えさせる授業」を創っていくことで、道徳科等の授業も変わっていく。
子どもたちが、「えっ」と考える。思わず涙の子どもにも起こさずとほおかけるような笑顔によって、これまでと違う考え方や感じ方と出る。

・少人数でやることで、大抵、
・ワイワイガヤガヤが人気。

○導入
・「伝言」について意識させる。「読了と資料に、いきなり資料に入るやり方もある。

○展開
・授業が、「受けかえたい授業」について、どれだけ理解しているかが大切。
・道徳の授業は、当然と想っていることを問うことで、改めて考えさせることにあ
る。
・授業に合わせるために、中心発問までに「何を考えさせるか」基本発問をしっかりと考える。
・資料からの読み取りにならないように、自分の経験から出て「この子はどう思ったのだから」と考えていく事ができるように、主人公の気持ちになって、自分だったらどう思うかを考えていく。

○道徳の授業づくりの充実に向けて、取り入れていきたいこと。
(道徳を促進した実践のために)

そのためには、発問(特に中心発問)が重要!!
資料に書かれた発問を参考にしよう!!

FDCA
改善・発展
のために

9年間を見通したTTによる道徳の授業

資料分析

6年生では、
○○まで考え
させられたから、
中学1年
では、□□ま
で考えさせら
れないかな

学級実態を
考えると
この資料を使
って○○の心
情を育てるこ
とをねらいにし
ただけど..

中心発問は、
ここを考えさ
せたいと思うけ
ど、どうかな?

私もここが
大切だと思う。
こういう発問
の仕方は
どうかな?

9年間を見通したTTによる道徳の授業

T1 T2の打ち合わせ

T1 担任

T2 道徳教育推進教師

・ファックスにより資料送付
・時間割調整による打ち合わせ
・時間確保

役割分担

T1 主導

**T2 視点をえて
問い直し**

分担して
発問

■ 車いすの少年(中学1年生)

略案

中心発問

予想される児童の発言

1	2	3	4
自分の力でやった方が少年のためだから 少年は自分の力でやりたいと思っていたから	少年が頑張っていたから 少年に自分の力で頑張っていたか 少年に自分の力で頑張っていたか	予想される生徒の発言 外国人に怒られたから 怖かったから	周りの雰囲気、なんともなく 周りが声援を送っていたから
→ どうしてこう思った？ もしかしてこんな経験があった？	→ 少年ならできるとしたら立ち去ってもよかったのでは？	→ なぜ立ち去らなかったの？	→ でも最初から私は励ましていたよね？ どんな気持ちで応援していたのかな？

9年間を見通したTTによる道徳の授業

違う視点で問い直し

出場しないのは、チームのみんなのこと考えていないんじゃないの？

新たな視点で

誤審だったことでもやもやした気持ちでいるのに出場するべきなの？

考えを深める

9年間を見通したTTによる道徳の授業

板書分担

構造的に板書

周りが声援を送っていたからだと思います。

でも、私は最初から励ましの気持ちがあったからね。

振り返り、深める

9年間を見通したTTによる道徳の授業

意図的指名のためのワークシートの見取り

1	2	1	1	3
2	3	2	2	1

教卓

思いやり
「なぜ手助けをしなかったのか」

1 少年の気持ちを考えると・・・
2 自分の力でがんばってほしい。
3 怒られたから。周りの雰囲気。

9年間を見通したTTによる道徳の授業

TTの工夫

発問分担(板書分担)

意図的指名のためのワークシートの見取り

違う立場で問い直し

道徳的価値について考えを深めさせる

道徳的実践力

発達の段階を意識

体験活動と道徳の時間との関連

自尊感情を育むプログラム

関連を示す

体験活動と道徳の時間との関連

フラワーロード

「はがたはがたの音を
はきながら 土をこ
ねよう」

土作り

体験を想起
させながら

道徳の授業

「はがたはがたの音を
はきながら 土をこ
ねよう」

花植え

道徳的実践
力をもとに

「私たちの道徳」の活用

保護者連携

① 道徳の時間に学習
自分を振り返る

② 保護者連携
子どもの文章から、
感想等の記入

③ より意欲的に
保護者の文章から、
より意欲的に

半分は区切つて
保護者記入欄に

① 希望と勇気が
夢に近づく力になる

② 希望と勇気を
もってぐんぐん
伸びていく

③ 希望と勇気を
もってぐんぐん
伸びていく

「私たちの道徳」の活用

保護者連携

学級の便利

☆ キラリ！道徳 ☆

「わたし(私)たちの道徳」について
「わたし(私)たちの道徳」は、冬休みに持ち
帰ります。各学年で宿題があります。下の表で
確認してください。また、そのページ以外でも
が記入したところ等を見られたり
と一緒に読んだりして、自
ら読んでいただきたいと思います。

期以降も(1・3・5年生は来年
ていきますので、1月7日始業式
学校に持ってくるよう、ご協力下

「私たちの道徳」の宿題

学年	ページ	内容
1年	156-157	「わたし(私)たちの道徳」について
2年	158-159	「わたし(私)たちの道徳」について
3年	160-161	「わたし(私)たちの道徳」について
4年	162-163	「わたし(私)たちの道徳」について
5年	164-165	「わたし(私)たちの道徳」について

「私たちの道徳」の活用

保護者連携

道徳の時間に学
習した後、家に持
ち帰り、家族と話
をして、考えが深
まったことを記入
する。

秋波中は昔から地域
の人にあいさつをし、
よく交流していたそう
です。これからも地域
の人たちとの交流を大
切にしていきたいです

学級で交流したり、
学級通信等
で保護者に紹
介したりする。

「私たちの道徳」の活用

保護者連携

美しい
写真
美しい
挿し絵

残る詩
道徳的
価値
児童生徒
の感想

授業の振り返り
道徳

「私たちの道徳」の活用

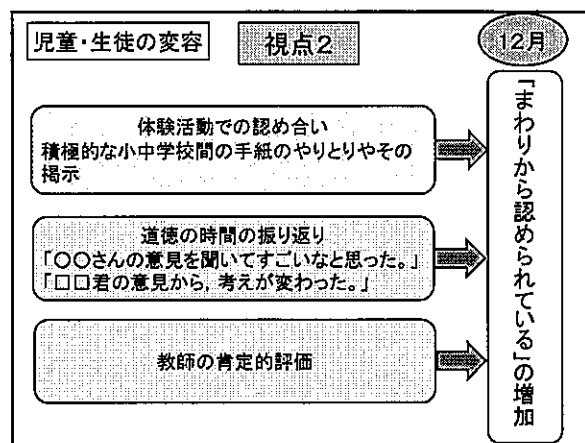
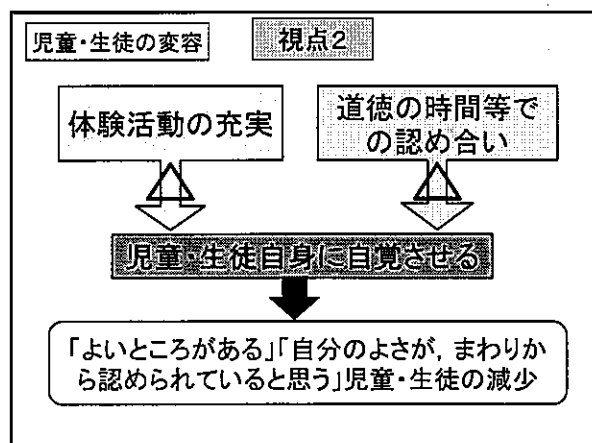
保護者連携

連絡帳より

掲示してもらった
ことをうれしそう
に母親に報告

「道徳が楽しいよ
」と言っています。あ
んなに苦手だった
道徳が！

掲示してもらった
ことが自信につな
がったようです



児童・生徒の変容

地域の方の声

敬老会の片付けが始まった時、出演者の子どもたちが、「何か私たちにお手伝いできることはありませんか」と明るく自然に、たずねてくれて、うれしかったです。

道徳の時間に人のことを考えた。私は時々、人にいやなことを言うてしまう。なくなるように気を付けたい。

生活記録集

成果

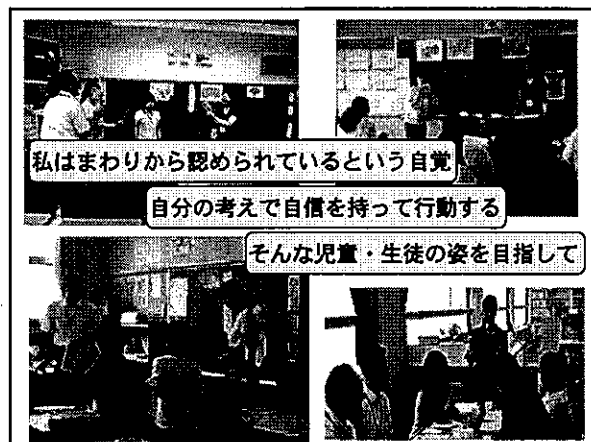
- 道徳の時間について、小・中学校で共通理解できた。
 - ・ 小中合同研修会の充実（理論研修・学習指導案検討・授業研究・「自分化宣言」等）
- 9学年を通してのTTによる道徳の授業が充実してきた。
 - ・ TTによる資料分析、発問構成
 - ・ 違う視点での問い直し
- 「まわりから認められている」という児童生徒が増加した。
 - ・ 道徳の時間や体験活動での認め合い

課題

- 「自分にはよいところがある」と感じている児童・生徒が減少した。

今後の取組

- 道徳の時間における、自分のよさを自覚できる発問の工夫
- 自尊感情を高めることにつながる体験活動と道徳の時間の関連の見直しと認め合い活動の充実とそのための連携
- 生活の中で道徳的価値についての意識の高い行動への適時的な肯定的評価



自尊感情を高める道德教育の創造

～玖波小・中学校における一貫性のある道德教育の推進～

大竹市立玖波小学校長 池上 宏, 大竹市立玖波中学校長 豊原芳史
同上 教諭(研究リーダー) 久保恵子, 同上 教諭(研究主任) 小田弘美

1 地域と学校の概要

玖波中学校のある大竹市は、広島県の西の玄関口であり、大竹・岩国石油コンビナートを中心とした工業地帯で、多くの事業所・工場がある。本校の位置する玖波地区は、江戸時代は本陣を構えるなど宿場町として栄え、地域の方々はこれらを誇りに思っている。また、子どもの教育についての関心が高く協力的な雰囲気がある。生徒は素朴で、体育祭などの学校行事には主体的に取り組み、集中力と団結力を見せてくれる。校則違反や問題行動等のいわゆる荒れの状況はほとんど見られない。しかし、保育園から同じ集団、小・中学校は各学年1クラスと固定的な人間関係の中で育ち、仲の良い友達という殻の中で安心して生活することから、集団の中での切磋琢磨や、自己を見つめる場面に乏しく、広島県が実施しているアンケートからも自尊感情が低いことが示された。

2 研究の目的

研究主題で示すように、小・中学校が連携して一貫性のある道德教育を推進することで、「1 地域と学校の概要」で示した課題を解決したいと考え、広島県「道德教育改善・充実」総合対策事業の指定を受け、研究主題を「自尊感情を高めるための道德教育の創造」と設定して取組を進めることとした。具体的には次の2点について研究した。

■研究テーマ1

玖波小・中学校が連携（相互理解・相互交流）して、道德の時間をティームティーチング（TT）で行うことで、9年間を見通した授業を行い、児童生徒の自尊感情の向上を目指す。

■研究テーマ2

玖波小・中学校がこれまで連携して取り組んでいる体験活動を継続・充実させ、道德の時間と関連付けることで、児童生徒の心に響く道德の授業づくりを行う。

なお、自尊感情について玖波小・中学校では、「自分を他者との関わりを通して、かけがえのない存在、価値ある存在として捉える気持ち」と定義付けている。

3 取組の内容

(1) 研究テーマ1（TTによる道德の時間の充実）

担任であるT1が、学級の実態を把握し、教材を選定する。道德教育推進教師であるT2が児童・生徒のそれぞれの発達の段階を考慮し9年間を見通しながら、2人で資料分析を深め、発問構成や問い直しの準備等、道德的価値についての考えが深められるように授業構成を考えた。TTによる授業で特に工夫した4点を下記①～④に示す。このように発達の段階を意識し、TTによる指導の工夫をし、児童生徒に道德的価値について考えを深めさせることで、道德的实践力を高めていくことができるように授業を構成した。

①資料提示

役割読み、ペープサート等で状況をわかりやすくすることで、資料理解がスムーズになり、資料の世界に入り込み、登場人物の気持ち等が考えやすくなる。

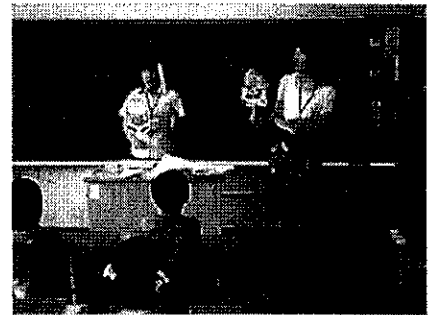


写真1:役割読み、ペープサート等

②発問分担（板書分担）

2人が、意図的に役割分担した。例えば、「友情」についての授業において、担任でないT2が、導入で「友達できた？どんなふうにして友達ができたのかなあ」と児童に問いかけ、友達について振り返るきっかけをつくる。資料の中での話をT1が発問し、展開の後段での自分自身への振り返りをT2が発問するというようにした。

図1:「私達の道徳」を活用した
保護者との連携 ①→②→③と連鎖させる

②道徳掲示板への活用

授業で考えたことの振り返りとして、資料の挿し絵や児童生徒の感想等といっしょに、関連のある道徳的価値のページを掲示した。

下記写真5、小学校3年生の授業で「私達の道徳」から、読み物「ヒキガエルとロバ」を学習した後の掲示である。

「私達の道徳」には、美しい写真、心に残る詩や言葉が多く掲載され、掲示物として活用できるページがたくさんあり、掲示物等にして色々と活用したい資料である。

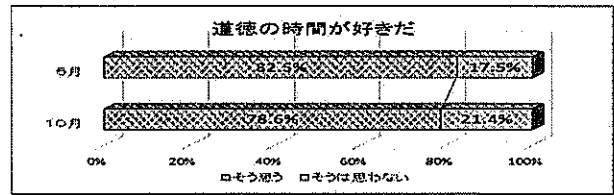


写真5掲示物の工夫

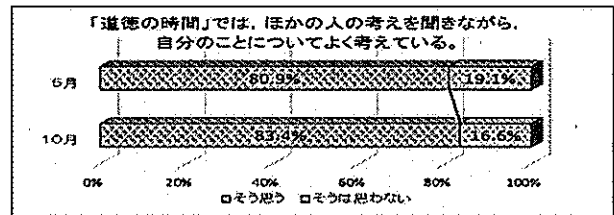
4 アンケートから捉えた取組の成果

「道徳の時間が好き」について肯定的に回答した児童生徒は、82.5%から78.6%に(3.9%)減少し(グラフ1)、「道徳の時間では、他の人の考え

を聞きながら、自分のことについてよく考えている。」に肯定的に回答した児童生徒は80.9%から83.4%に(2.5%)増加した(グラフ2)。



グラフ1: 道徳の時間が好きの割合



グラフ2: 他の人の考えを聞くことの割合

「道徳の時間が好き」について、評価が下がった理由として、「気持ちを考えることが難しい」「自分の中で答えが見つからない」ということが挙げられた。今まで深く考えることが少なかった児童生徒も、問い直しの発問について考えたり、友達の意見を聞きながら自分を振り返ったりすることで、難しさを感じ始めたり、自分にできていないところを自覚し始めたことが、評価が下がった原因と考えている。

また、道徳の時間と関連させた体験活動や認め合いの場の設定をしたが、それが、児童生徒に自分のよさを自覚させる取組には至らなかったことで、自尊感情の高まりに結びつかなかったものと思われる。

さらに、「道徳が好き」と相関が高い項目を調べると、小学校低学年では、「自分の考えをもつ」等「自分のこと」に関する項目が高く、中学2・3年生では、「他人の考えを聞いて自分のことを考える」等、「他人の考え」に関する項目が高い傾向が見られた。

(下記の「道徳が好き」との相関が高い順の表2を参照)

前期(小1年~小4)	中期(小5年~中1)	後期(中2年~中3)
「道徳が好き」な理由(相関が高い順)		
⑩社会で役に立つ	①自分の考えをもつことができる	⑩社会で役に立つ
⑪道徳はためになる	⑥人の気持ちを考えることができる	⑫他人の考えを聞き自分のことを考える
⑧違った自分を見つける	④2人から色々話が聞ける	⑤話しや意見に感動する
⑦自分の行いを振り返る	②2人でスムーズな授業になる	⑪道徳はためになる
⑤話しや意見に感動する	③2人でスムーズな授業になる	②友達のことを聞く
⑫他人の考えを聞き自分のことを考える	①自分の考えをもつことができる	⑥人の気持ちを考えることができる
⑥人の気持ちを考えることができる	⑦自分の行いを振り返る	③違った自分を見つける
③2人でスムーズな授業になる	⑧違った自分を見つける	①自分の考えをもつことができる
①自分の考えをもつことができる	⑤話しや意見に感動する	④2人から色々話が聞ける
④2人から色々話が聞ける		③2人でスムーズな授業になる
②友達のことを聞く		⑦自分の行いを振り返る

表2: 「道徳が好き」との相関が高い順 (赤色「自分のこと」に関する項目、青色「他人の考え」の項目)

このことは、「道德の時間」が「自分のことを考える場」から、成長とともに「他人の考えから自分を振り返る場」と、視点が変化していることと捉えられる。

TTと「道德の時間が好き」と関係が強かったのは小学校1年生であった(表3)。TTによる効果的な資料提示や個別の声かけ等により、考えやすくなり、楽しさを感じたためと推察できる。

小学校1年生 「道德が好き」な理由(相関が高い順)	小学校1年生において、TTの体制により、「道德の時間」が「好き」と感じている。
④2人から色々話しが聞ける	
③2人でスムーズな授業になる	
②友達の意見を聞ける	
⑥人の気持ちを考えることができる	
⑪道德はためになる	
⑤話しや意見に感動する	
⑧違った自分を見つける	
⑩社会で役に立つ	
①自分の考えをもつことができる	
⑦自分の行いを振り返る	
⑫他人の考えを聞き自分のことを考える	

表3:小学1年生の「道德が好き」との相関が高い項目

「自尊感情の高まり」については、「自分にはよいところがある」「よさは周りから認められている」に肯定的に回答した児童生徒は両方とも減少した。一方、地域の方から「毎年、敬老会で歌を披露するのですが、片付けするころまで残っていた児童が、『何か私たちにできることはありませんか。机の片付けをしましょうか』と尋ねてきました。その時の表情や言い方が明るく自然だったのでこの子たちの真心を感じてとてもうれしかったです」というお話を聞くことができた。また、中学生が毎日を振り返って書く「生活記録」に、道德の時間の学習から自分自身について考えている様子が窺えるものがあった。

5 取組の成果と課題

成果は次の2つである。

- 成果1:「道德的価値について深く考え、日常生活に生かす児童生徒の姿が見えてきたこと。

資料分析を深め、道德的価値にせまるための発問構成等、授業を2人で考えることで道德の時間が充実したためと考える。また、道德の時間と体験活動を関連させたことで、意欲がより高まったものとする。

- 成果2:他の人の考えを聞き、自分を振り返る児童生徒が増えてきたこと。小・中合同で学習指導案検討や授業研究等を行い、発達の段階を共有・

理解しながら授業づくりをすることで、道德の時間が充実したためと考える。

課題は次の2つである。

- ▲課題1:「道德の時間が好き」という児童生徒が減少したこと。
- ▲課題2:「自分のよさ」や「よさが認められていること」について自覚させる取組が不十分だったこと。

6 今後の研究の方向性

上記5で示した課題を解決するために、今後、次の2つの取組を進めたいと考えている。

- アンケート分析から示された、小学校低学年時には、「道德の時間が好き」と相関が高かった「自分の事」に焦点を当て、「自分だったらどう思う」等、自分の考えをもつことができる発問やそれを交流し合える場を意識的に取り入れるようにする。そして、学年が上がるにつれ、「他人の考え」に焦点をあて、より聞き合う場を設け、「友達の意見を聞いてどう思った」等の発問を取り入れていく。また、「考えることが難しい」という児童に対して、どの児童生徒にも考えやすい発問にしたり、個別の支援をさらに充実させ、考え深めることや新たなことに気付く喜びを感じさせられるようにしていく。
- 自尊感情を高めるために、「自分の良いところ」や「成長したところ」を自覚させるため、道德の時間における振り返りの場面で、認め合える発問を意識的に取り入れていく。さらに、体験活動での認め合い活動をより充実させていく。例えば、活動後の振り返りの時間の確保、お礼状や手紙、良いところ見つけのカード交換や掲示、保護者向けの通信の発行等による連携を考えている。これらの取組によって、「よさ」や「よさを認められている」ことへの自覚に繋がり、自尊感情を高めていくことができると考える。

7 おわりに

本研究は、兵庫教育大学大学院 谷田増幸教授、広島県教育委員会、大竹市教育委員会の皆様のお陰で研究を進めることができました。教職員一同心より感謝するとともに、引き続き研究を深めていきたいと考えています。